

ナシ「秋麗」の除芽による摘果作業労力軽減技術

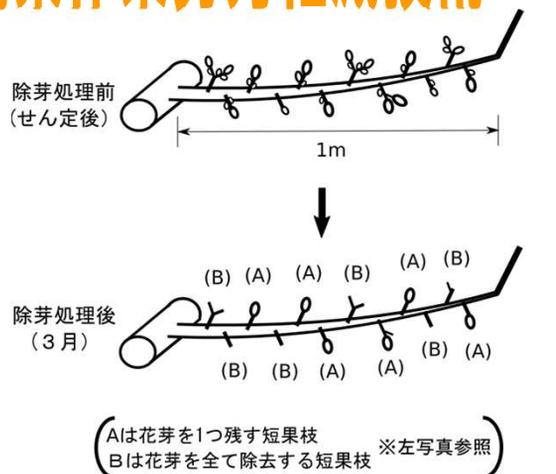
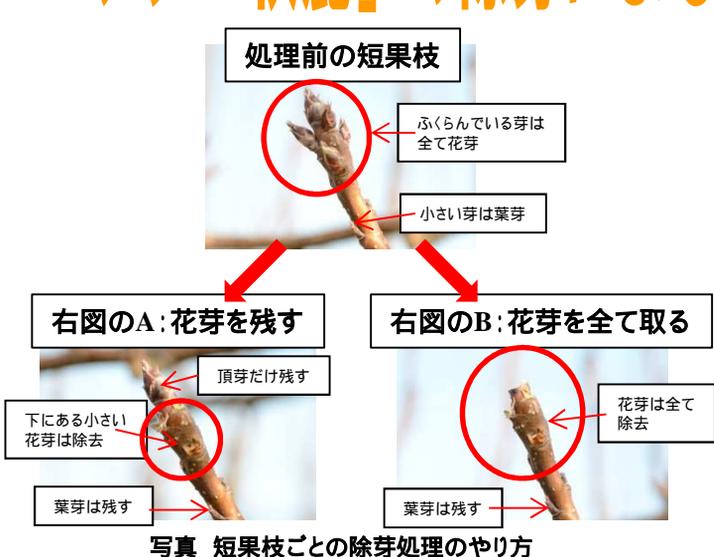


図 側枝の除芽処理のやり方(1m当り6個花芽を残す)

問 研究のねらいは？

答 ナシ「秋麗」はおいしいですが、着果が非常に多く、摘果作業に多大な労力がかかります。そこで、摘果労力削減技術を開発することで、ナシ農家の作業労力の軽減を図りました。

問 優れている点は？

- 答
- ① せん定後に2年生以上の側枝で、1m当り花芽を6芽残して残りの花芽を除芽(上図)すると、予備摘果に要する時間を48%、摘果作業全体に要する時間を35%削減できます。
 - ② 処理により、糖度や果形を損なうことなく、大玉果(3L以上果)の比率を高めることができます。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- ① 残す芽が少ないと、肥大や果形の優れた果実を選ぶことができなくなり、多すぎると効果が薄くなります。
 - ② 除芽はせん定後、3月頃(開花前)を目処に実施します。また、除芽で花が減りますので、人工受粉を確実に実施します。